

Lumen gallery / HRD FINE ART 合同展覧会開催のご案内

日韓映像プロジェクト展 《 ECHOGRAPHY 》

会 期： 2016年 6月28日（火）～ 7月3日（日）

時 間： ① Lumen gallery = 13:00～19:30

② HRDファインアート = 11:00～18:00

Lumen galleryとHRDファインアートで開廊時間が異なりますのでご注意ください

出品作家： アン・コンヒョン、ジョン・ジイン、岡松トモキ

オープニングレセプション： 6月28日（火）19:00～ Lumen galleryにて

【展覧会概要】

このたび、Lumen gallery（京都・清水五条）とHRD ファインアート（京都・鞍馬口）の2会場同時開催にて、韓国と日本の映像作家3名によるグループ展「ECHOGRAPHY（エコーグラフィィー）」を開催する運びとなりました。

本展は、韓国文化芸術委員会（Arts Council Korea）の助成のもと、韓国人インディペンデントキュレーター、イム・ボラム（Boram Lim）のキュレーションにより企画構成されています。アン・コンヒョン（Kearnhyung Ahn）とジョン・ジイン（Jiin Juen）の2名の韓国人映像作家に加え、熊本在住の映像作家、岡松トモキの参加により、日韓文化交流も視野に入れた国際展となります。本来は本年5月に熊本市のギャラリーADOにて開催予定でしたが、4月中旬に発生した熊本地震の影響で会場の使用が不可能となり、代替地として京都での開催が急遽決定したものです。プロジェクトやモニターの使用による計6点の作品の展示が予定されています。

「エコーグラフィィー」とは、本来は超音波の反射によって体内の状態を可視化する「超音波診断法」を指す医学用語ですが、フランスの現代哲学者ジャック・デリダはこれを「目に見えないものの本質を共鳴や反響から探り当てる」という拡張的な意味で用いました。本展は、この拡張的な意味における「エコーグラフィィー」をキーワードに、映像作品において不可視な背景情報が持つ意味や役割について問いかける展覧会となります。さらに、映像媒体における観者（人間）とイメージや映写環境との間の相互作用、そこに生まれる〈エコー〉（反響・共鳴）にも目を向けています。

誰かの手によって生み出された映像は、現実そのものではなく現実の一部分の再構成にすぎません。たとえそれを形づくっているひとつひとつの素材は現実を映し撮った〈記録〉（ドキュメンタリー）であったとしても。しかし、それが観客によって受け取られるとき、その関係性からは別の次元の新たな〈現実性〉（アクチュアリティィー）が生まれます。それは映像という表現形式そのものが持つ長所であり、またそこに危険性が孕まれているとも言えるかもしれません。

本展は、映像作品の背後に隠された不可視な〈現実〉の反響や共鳴を感じ取ることを〈エコーグラフィィー〉という言葉に託して、またさらに映像作品を通じて日本と韓国という2つの国の間に生まれる〈エコーグラフィィー〉にも注目を誘う展覧会となります。

何卒ご高覧いただき、またご喧伝・ご紹介賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

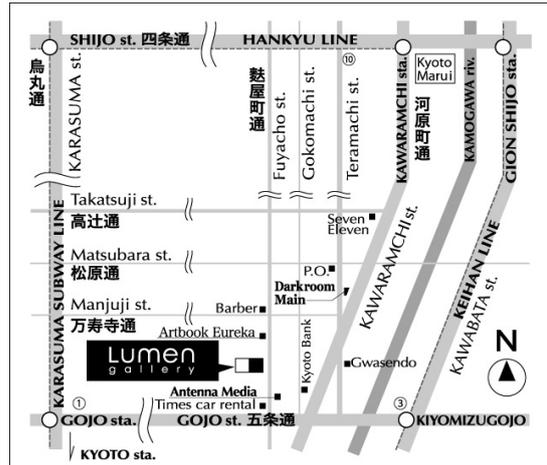
お問い合わせ： Lumen gallery ルーメンギャラリー

住所：〒600-8059 京都市下京区麩屋町通五条上る下鱗形町543
有隣文化会館2F

電話：090-8448-9737 (担当：林)

ウェブ：<http://www.lumen-gallery.com>

Eメール：info@lumen-gallery.com



HRD FINE ART エイチアールディー・ファインアート

住所：〒602-0896 京都市上京区上御霊壱町494-1

電話：090-9015-6087 (担当：原田)

ウェブ：<http://www.hrdfineart.com>

Eメール：info@hrdfineart.com



★展覧会の内容に関するご質問・お問い合わせはHRDファインアートまでご連絡ください。

【作家紹介】**アン・コンヒョン Kearnhyung Ahn**

1976年ソウル生まれ。

韓国芸術総合学校映像院修士課程修了。

ドキュメンタリーの手法をベースに、定式的な映像言語を解体した実験的な作品の制作に継続的に取り組んでいる。ドキュメンタリー映像に織り込まれたつくりものの現実性に目を向け、現代の映画における映像撮影技術の意味を問い直す試みを続けている。

チョンジュ国際映画祭（チョンジュ）、DMZ国際ドキュメンタリー映画祭（パジュ）、ソウル・インディペンデント映画祭、ソウル・インディペンデント・ドキュメンタリー映画祭、インディフォーラム（いずれもソウル）、カルチュラル・レジスタンス国際映画祭（レバノン）など、韓国国内外の映画祭に多数出品している。

ジョン・ジイン Jiin Juen

1979年ソウル生まれ。

韓国芸術総合学校美術院修士課程修了。

場所や存在そのものが持つ複数の不可視のレイヤー（層）に着目し、それによって事故や事件が起こった現場やそれにまつわる記憶に迫ろうとするのがジョン・ジインの作品である。映像や写真、文章をインスタレーション的に組み合わせたその作品は、繰り返しやスローモーションの多用が生み出す独特の単調さを特徴としており、そこには存在と非存在のあわいを表現するためのひとつの定式が確立されている。

主な個展に「Between You」 Gallery 175（ソウル、2014年）、「Inter」 Ga Gallery（ソウル、2008年）など。その他、韓国国内外にてグループ展に多数参加している。

岡松 トモキ Tomoki Okamatsu

1976年熊本生まれ。

1999年神戸学院大学人文学部卒業。

主に女性を被写体とした物語性を感じる写真作品や映像を制作。大きな空間を使った展示などではプロジェクターを使用した空間演出により写真を立体的に表現したり、漆喰を塗った板などを支持体に写真を転写することによりデジタル写真にアナログ性を持たせる手法を試みるなど、さまざまな表現方法に取り組んでいる。

主な個展に「壁展」なかお画廊（熊本、2015年）、「オカマツトモキノヘヤ〈白い森～冬の森編～〉」古民家ギャラリー百花堂（山鹿、2011年）など。熊本を中心にグループ展に多数参加している。

【企画者紹介】

イム・ボラム Boram Lim

1979年ソウル生まれ。

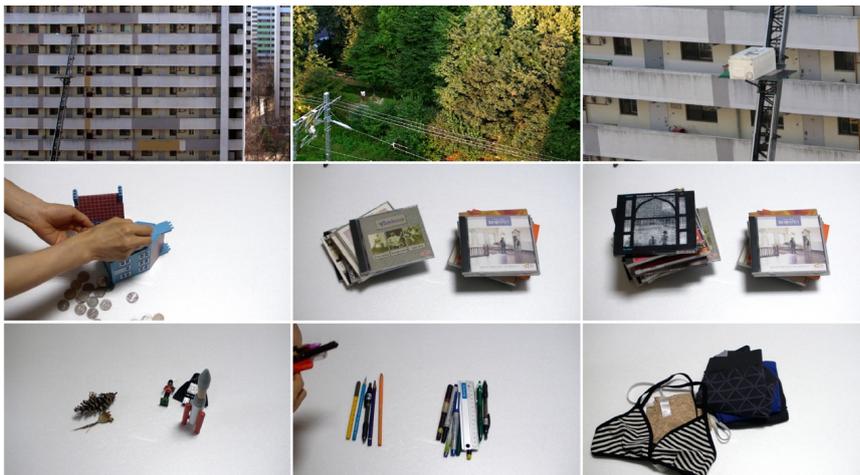
韓国芸術総合学校美術院美術理論科修士課程修了

インディペンデントキュレーターとして韓国国内外で多数の展覧会を企画するなど、幅広く活動している。企画を担当した主な展覧会としては「Everyday is Not the Same」BizArt Center（上海、2008年）、「The First Roof Under Seoul Sky」space O'NewWall（ソウル、2013年）、「Site Explorers」ギャラリーADO（熊本、2013年）、「Yurang: Site Explorers」Gallery 175（ソウル、2015年）などがある。

【作品】 (参考画像)



アン・コンヒョン 《With This Thou Wilt Not Perish》 (2014年) より



ジョン・ジイン 《Walk Apart》 (2014年) より



岡松トモキ 《闇夜海月》 (2015年) より